

令和4年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) いずみ認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現状⇒毎年異年齢活動を行っているが、他クラスで交わって遊ぶ姿が見られない。異年齢活動も保育教諭の声かけで行動している。 ○ 取組⇒異年齢活動を週1回必ず入れるようにし、縦のつながりを深められるようにしている。1グループ5、6名のグループを作り活動している。 ○ 課題⇒子ども主体より、保育者主体になっている時があるので、環境構成や保育活動の工夫は、保育者間で話し合い、子ども主体で活動できるようにする。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異年齢と関わりながら、思いやりや頼る気持ちを味わい、社会性や協調性を身につけ、一緒に生活や遊びを楽しむ。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動前にどんな活動をしたか、年長児クラスがミーティングで話し合い、決まった遊びや活動を異年齢の場で発表し、年長児主体の活動にしていく。保育者は年長児の活動内容を聞き、環境構成や活動の工夫を行い、スムーズに活動を行えるようにする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初のミーティングは、先生主導だったが、回数を重ねていくうちに、子どもたちからの発言で話が広がり、自分の思っていることを伝えられるようになってきている。 また年長児が中心になって活動している中で、年中・年少児の言動で思うようにいかず、困っていることもあるが、自分の思いを抑えながら、年中・年少児に合わせて言葉や行動がとれるようになってきている。
評価	<p>これまで保育者主導になりがちだった保育が、少しずつ子ども主体の活動が増えてきている。乳児では、環境構成を見直すことで生活自体に落ち着きが見られ、子どもたちが生き生きと活動できるようになっている。異年齢活動を通して、年長児がミーティングをすることで、自分たちの思いを伝えることができるようになり、年中・年少のために考えたり、相手のことを理解しようとしたりする姿が見られるようになってきている。なかなか全員が発言したり自発的に行動したりするのは困難ではあるが、その環境に身を置いたことで、将来への基礎づくりができたのではないかと考えられる。今後も継続して取り組まれることで、さらなる成果があらわれると期待できる。</p>